

平成31年 3月12日  
午前10時00分開議  
於 議 場

1. 出席議員は次のとおりである（14名）

3番	加藤克之	4番	高橋八重典
5番	永井利明	6番	鈴木みどり
7番	那須英二	8番	三宮十五郎
9番	早川公二	10番	平野広行
11番	三浦義光	12番	堀岡敏喜
13番	炭竈ふく代	14番	佐藤高 清
15番	武田正樹	16番	大原 功

2. 欠席議員は次のとおりである（なし）

3. 会議録署名議員

15番	武田正樹	16番	大原 功
-----	------	-----	------

4. 欠員（2名） 1番 2番

5. 地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名（35名）

市 長	安藤正明	副 市 長	大木博雄
教 育 長	奥山 巧	総 務 部 長	渡邊秀樹
民生部長兼 福祉事務所長	村瀬美樹	開 発 部 長	安井耕史
教 育 部 長	立松則明	総務部次長兼 庁舎建設室長	伊藤重行
民生部次長兼 福祉課長	山下正巳	開発部次長兼 土木課長	伊藤仁史
開発部次長兼 都市計画課長	大野勝貴	会 計 管 理 者	山田 淳
教育部次長兼 生涯学習課長兼 十四山スポーツ センター館長	安井文雄	教 育 部 次 長 兼 図 書 館 長	横山和久
監 査 委 員 事 務 局 長	羽飼和彦	総 務 課 長	佐藤文彦
財 政 課 長	佐藤雅人	秘 書 企 画 課 長	安井幹雄
危機管理課長	伊藤淳人	税 務 課 長	佐野智雄
収 納 課 長	服部朋夫	市 民 課 長	梅田英明
保険年金課長	服部利恵	環 境 課 長	柴田寿文

健康推進課長	飯田宏基	介護高齢課長	藤井清和
児童課長	大木弘己	十四山支所長	鈴木博貴
総合福祉 センター所長兼 十四山総合福祉 センター所長	村瀬修	農政課長	小笠原己喜雄
商工観光課長	横江兼光	下水道課長	水谷繁樹
会計課長	伊藤えい子	学校教育課長	渡邊一弘
歴史民俗資料館長	伊藤隆彦		

6. 本会議に職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	石田裕幸	書記	鷲尾里恵
書記	伊藤国幸		

7. 議事日程

日程第1	会議録署名議員の指名
日程第2	一般質問
(追加日程)	
日程第3	議案第1号平成31年度弥富市一般会計予算の訂正について
日程第4	議案第31号 平成30年度弥富市一般会計補正予算(第7号)

~~~~~ ○ ~~~~~

午前10時00分 開議

○議長（堀岡敏喜君） おはようございます。

ただいまより継続議会の会議を開きます。

~~~~~ ○ ~~~~~

### 日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（堀岡敏喜君） 日程第1、会議録署名議員の指名をいたします。

会議規則第88条の規定により、武田正樹議員と大原功議員を指名いたします。

~~~~~ ○ ~~~~~

### 日程第2 一般質問

○議長（堀岡敏喜君） 日程第2、一般質問を行います。

順次発言を許します。

なお、本日の登壇予定の平野議員から配付資料の依頼がありましたので、これを認め、各位のお手元に資料を配付しておりますので、よろしく願いをいたします。

それでは、まず平野広行議員、お願いします。

○10番（平野広行君） おはようございます。10番 平野広行でございます。

通告に従いまして質問をさせていただきます。

平成における最後の弥富市議会定例会となりました。振り返りますと、平成の時代は戦争のない平和な時代でありましたが、災害の多い時代であったと思います。幸い本市におきましては大きな災害はありませんでした。

その一方で、環境問題に関しては、南部地区においてし尿処理場、魚アラ処理施設等不快施設が建設された後、海部地域のごみ処理施設の建設問題が生じました。これは津島市ほか11町村で構成する衛生組合が広域でごみを処理する焼却場を弥富町内に建設する計画を弥富町に陳情し、当時の弥富町議会では環境衛生対策特別委員会を設置してこの問題に取り組んできました。

そして、さまざまな議論を経て、平成13年10月より海部地区環境事務組合が管理する八穂クリーンセンターとして操業し、現在に至っております。

また、津島市ほか11町村衛生組合が周辺環境の改善及び住民福祉の増進に資するため、廃棄物処理施設等周辺環境対策基本要綱に基づき、弥富町が実施する周辺環境整備事業の施行に係る経費の交付に関して周辺環境整備事業費の協定に基づいて周辺対策費として60億円が弥富町に交付され、いこいの里建設事業、鍋田公民館、大谷児童公園、栄南児童館の建設及び中央幹線の整備事業を初めさまざまな事業が行われたと理解をしております。

また、操業に際しては公害防止協定、操業協定が海部地区環境事務組合と結ばれ、今日ま

での操業に至っているものと私は理解をしております。

現在も弥富市議会にて御活躍中の大原議員、三宮議員におかれましては、当時、環境衛生対策特別委員会に所属され、三宮議員におかれましては委員長として取り組まれておりました、お二人を前にしての質問となって大変恐縮をいたしておりますが、我々議員も含め、当時のいきさつを知る市民の方も少なくなり、この件につきまして、八穂クリーンセンターの今後はと題して、過去の経緯について確認をし、今後の八穂クリーンセンターの操業に関する本市としての考えを伺いますので、よろしく願いをいたします。

まず初めに、旧津島市ほか11町村衛生組合が新焼却場の建設を当時の弥富町に求めた経緯から伺います。

○議長（堀岡敏喜君） 柴田環境課長。

○環境課長（柴田寿文君） おはようございます。

新焼却場建設を当時の弥富町に求められた経緯について御答弁申し上げます。

昭和58年以来、旧佐織町地内の清掃工場で操業しておりましたが、操業期限が決められていたため他の土地を求める必要があり、移転候補地を探しておりましたが難航し、平成6年9月21日に組合管理者及び構成市町村長から弥富町長及び弥富町議会議長宛てに弥富町地内での土地確保に陳情書が出されました。

○議長（堀岡敏喜君） 平野議員。

○10番（平野広行君） 私も以前ニュースで知っておりますが、たしか住民訴訟によって旧佐織町地内で操業していた清掃工場の操業期限が決まっておって、次の移転候補地を探している中で、やはり不快施設は住宅地より離れた場所に建設するのが一般論であり、住宅地からは遠隔地である弥富町地内での土地確保に向けての陳情書が町長、町議会議長宛てに出されたのと、こういうことですね。

それでは次に、焼却施設の建設、操業に当たって、地元要望に対して衛生組合として、また弥富町としてそれぞれ対応してきたと思いますが、弥富町としてはどのような対応してきたのか伺います。

○議長（堀岡敏喜君） 柴田環境課長。

○環境課長（柴田寿文君） 御答弁申し上げます。

平成6年9月7日の全員協議会において、当時の川瀬町長が津島市長ほか11町村長からごみ焼却場の建設地を弥富町でお願いしたいと要請を受けたとの報告がされました。

同日、環境衛生対策特別委員会を設置し、平成9年度まで鍋田地区から出された要望に基づき、新清掃工場の建設地や周辺対策整備事業等について14回にわたり協議が続けられました。

平成8年3月5日に鍋田地区が建設に同意し、平成9年12月19日に弥富町と津島市ほか11

町村衛生組合で協定に調印されました。

海部地区環境事務組合としては、公害防止協定書、清掃工場操業協定を締結して操業しております。

○議長（堀岡敏喜君） 平野議員。

○10番（平野広行君） 津島市ほか11町村衛生組合から弥富町でごみ焼却施設の建設地をお願いしたいとの要請を受けて、議会では環境衛生対策特別委員会を設置し、清掃工場の建設地や周辺対策事業について協議が続けられ、鍋田地区が建設に同意したと、こういうことでありますね。

海部地区環境事務組合としては、公害防止協定、清掃工場操業協定を締結し、操業を開始して今日に至っていると、こういうことであります。

それでは次に、現在もその周辺対策費として弥富市にお金が入ってきておりますが、それは幾らですか、伺います。

○議長（堀岡敏喜君） 柴田環境課長。

○環境課長（柴田寿文君） 御答弁申し上げます。

市町村交付金に相当するものとして、固定資産税相当額、これは土地に限りますが、平成30年度は605万3,000円です。ちなみに、上野センター分も合わせますと948万4,100円です。

○議長（堀岡敏喜君） 平野議員。

○10番（平野広行君） 周辺対策費としては、市町村交付金に相当する固定資産税の相当額605万3,000円が毎年度支払われていると、こういうことであります。

操業協定において、操業期間は30年間として、その10年前、2022年に当たりますが、次の焼却施設の建設候補地を決定すると操業協定にはあります。次の建設候補地が決定できない場合、現施設での操業延長も考えられますが、それと同時に操業協定に基づきまして、多額の違約金の支払いが生じてきます。回答期限まであと3年ほどに時間が迫ってきております。これらの対応については環境事務組合が行いますが、早く地元との協議に入らなければならないと思います。

安藤市長は環境事務組合の副管理者でもありますが、この操業協定に関して、管理者であります津島市長、あるいは環境事務組合事務局から説明を受けているのか、まず伺います。

○議長（堀岡敏喜君） 安藤市長。

○市長（安藤正明君） 皆様、おはようございます。

海部地区環境事務組合の管理者である津島市長及び組合事務局から、操業協定について経緯の概要を聞いております。

○議長（堀岡敏喜君） 平野議員。

○10番（平野広行君） 回答期限が迫っている中、施設は弥富市内にありますし、操業に関

する協定は環境事務組合と鍋田自治会とで締結されております。

弥富市として、市長としてどのように取り組んでいくのか伺います。

○議長（堀岡敏喜君） 安藤市長。

○市長（安藤正明君） 弥富市は八穂クリーンセンターの地元市として、また組合の構成団体として海部地区環境事務組合に協力してまいります。

操業延長に向け海部地区環境事務組合管理者会で検討していきますが、市の施策とは切り離して協議していくものと考えております。以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君） 平野議員。

○10番（平野広行君） この問題に関しては、関係者の皆さん、のんびりしてみえるように思います。

鍋田自治会では、1年前になりますが、八穂クリーンセンターの操業協定に関する問題の対策検討会である八穂プロジェクトを立ち上げ、いつでも環境事務組合との話し合いに臨む体制が整っております。環境事務組合と地元自治会との橋渡し役は安藤市長でありますので、安藤市長には早く環境事務組合管理者と話し合いの場を設けるよう進言しておきます。

きょうも地元から大勢の方が傍聴に来てみえますが、八穂プロジェクトの方もやはり市長が頼りであり、また相談相手だと思ってみえますので、よろしく願いいたします。

現在、関係自治体の中で飛島村を除く全ての自治体では財政の余裕はありません。新たに焼却施設を建設することは一般論として得策ではないと思っています。そして無理だと思います。私としては操業延長に向け、条件闘争になっていくものと思っています。八穂プロジェクトのメンバーの方を見回しても、ほとんどが二世の方であります。八穂クリーンセンターの操業に関する考え方は、当初の皆さんとは柔軟な方向へ変化してきていると思います。

あの伊勢湾台風からことしで60年の節目を迎えます。最も大きな被害を受けた鍋田自治会の皆さんは、水害に対する安全対策には万全を期してもらいたいという思いは物すごく強いものがあります。12月議会で質問しましたが、津波等からの一時避難場所の1人当たりの収容率は栄南学区は280%で、市内では最も高い数値となっておりますが、問題は避難できる施設にたどり着くまでの時間がかかるということでもあります。私もこの地域の方との話し合いの場でよくお聞きするのが、もっと身近に、地区内に一時避難する場所を確保したいという御意見です。周辺対策費を出すのは環境事務組合ですが、事業を行うのは弥富市ですから、鍋田自治会の皆さんが今後の八穂クリーンセンターのあり方についてどのように考えてみえるのか、市長も八穂プロジェクトの方と早く話し合いの場を設け、要望事項も含め地元の考え方を理解することが今一番求められていることだと思います。これは、先日、市長も自治会の総会にお見えになってこの辺の話はされておりますので、理解されていると思います。

そして、管理者会の場でこういった地元の考え方を説明し、早く話し合いの場を設けるよ

う進言していただき、さまざまな角度から議論し、地域住民の方に納得していただける結論を見出していただくことが今後の八穂クリーンセンターの安定した操業を維持できる方策であることを強く申し上げて、次の質問に移ります。

次は、関連で隣地の土地利用について質問します。

現在の八穂クリーンセンター受け入れに当たって、鍋田自治会より18項目の要望が出され、組合として回答する事項、弥富町として回答する事項がありますが、弥富町への要望の中で八穂クリーンセンター周辺農地の白地化があります。

平成21年に策定された弥富市都市計画マスタープランにおいて、西側の隣接地についてはものづくり産業地として位置づけられておりますし、素案ではありますが、平成31年3月、今月ですが、作成される予定の弥富市都市計画マスタープランにおいても、新産業エリアとして位置づけられ、新エネルギーの利活用に資する土地利用の検討とされてはいますが、今までにこの土地の白地化に向けてどのような取り組みがなされたのか、また今後どのような形で進めていくのか伺います。

○議長（堀岡敏喜君） 大野都市計画課長。

○開発部次長兼都市計画課長（大野勝貴君） お答えいたします。

八穂クリーンセンター周辺地区は、湾岸弥富インター及び名古屋港鍋田埠頭につながる臨港道路にも至近であり、かつ有効に活用できることから、弥富市都市計画マスタープランでは工業系の土地利用計画を位置づけております。

しかし、八穂クリーンセンター西側ブロック土地所有者の方々からの御要望であります農地の白地化、つまり農業振興地域の除外につきましては、当地区の農地区分が農用区域内の甲種農地で農地転用許可は原則不許可の地区であり、農地転用許可の見込みのない事業計画に対して農業振興地域の除外はできません。

このような状況の中、平成19年2月には関係地権者代表から当地区の市街化区域の編入の陳情をいただきました。

その間、市では工業系土地利用を目指し、いろいろな手法を検討し、市街化調整区域内の地区計画を活用した愛知県企業庁による内陸部造成事業による開発が最善の策と考え、平成27年には地権者の事業に対する同意収集や埋設物の簡易調査を実施いたしました。

調査の結果、コンクリート殻等の埋設物が確認され、翌年には関係者に調査結果及び埋設物は土地の所有者の責任において撤去処分していただく旨を説明させていただきました。

その結果、この事業に対する条件の関係者全員の同意が得られませんでした。また、同時期に港に近い当地区を最適地とした企業進出の計画があり、市街化区域への編入手続に着手し、地権者同意のもと愛知県や国との協議に入りましたが、事業の確実性が確認できなかったことから、今年度断念をいたしました。

しかし、計画期間が来年度からの次期都市計画マスタープランにおきましても当地区は工業系土地利用計画を位置づけておりますので、引き続き埋設物等の課題を整理し、愛知県と相談しながら都市的土地利用を検討していきたいと考えております。

○議長（堀岡敏喜君） 平野議員。

○10番（平野広行君） いずれにしましても、都市計画マスタープランにこの土地の利用方針が新産業エリアとして示されています。第4次行政改革大綱においても歳入の確保が重要であることが示されております。この土地にふさわしい企業誘致に全力で取り組まなければならないと思います。

新産業エリアに位置づけられております末広地区も同じですが、計画に沿った土地利用をスピード感を持って進めていただくことを強く求め、次の質問に入ります。

次は、中期財政計画・財政見通しとはについてであります。

安藤市長も就任以来、各自治会での発言の中で、弥富市は金がない、金がないと発言されておりますが、果たして弥富市は金がないのか。そのためにただいま審査中であります31年度予算において、JR・名鉄弥富駅自由通路整備事業の予算が計上されていないのか。また、減額された事業、廃止された事業が目立っております。

これらのことを我々議員も市民の方もはっきりと理解するために、12月議会で示されました中期財政計画・財政見通しを通して質問していきたいと思っております。

先日、各家庭に広報「やとみ」3月号が配布されております。これですね。こういった財政計画。その中で2面にわたって中期財政計画が掲載され、弥富市の厳しい財政状況という形で説明されております。テレビをごらんの皆様も広報「やとみ」3月号をごらんになって私の一般質問を聞いていただければと思います。

まず最初に、中期財政見通しの必要性についての考えを伺います。

12月議会において、2019年度から2023年度までの第2次弥富市総合計画の前期5年間の財政見通しが示されました。皆様のお手元にお配りしてあります表1ですね。この中で、2020年度からは形式収支において段階的に6,000万円から約12億円のマイナスになるとの見通しになっております。過去におきましても平成25年度から29年度の財政見通しにおいて、形式収支では約2億5,000万円から5億3,000万円の赤字が示されておりました。

一方で各年度における決算額においては、形式収支は約5億円から6億円の黒字となっておりまして、財政見通しと決算とでは8億円から10億円の乖離があります。表の2です。これに示してあります。

これらの財政計画及び財政見通しはホームページにもアップされておりますが、10年後の2028年度には形式収支において15億7,700万円の赤字が示されております。この表の3ですね、2028年度。



弥富市は尾張9市の中で、1人当たりの市税収入は約18万円、自主財源比率は65%、財政力指数は0.99で、財政力においてはトップであります。西部臨海工業地域、名古屋港の一翼を担う鍋田埠頭、弥富埠頭を持ち、固定資産税は毎年増加し、稼ぐ力はあるのになぜこのような赤字見通しになるのか、市民の方には理解ができないと思います。広報「やとみ」を見た私の知人ですが、内容は難しくよくわからんが、毎年度約12億円もの赤字になっていくと書いてあると。弥富の将来は暗いなあ。本当に大丈夫かと。今のうちに隣の飛島へでも移るか、冗談ですが、そんなようなことを言っておりました。これでは市民の皆様には、明るく希望が持てないのではないかと思います。情報開示により市の財政状況を市民と共有することは大事なことでありますよ。しかし、余りにも厳しい状況をこのような形で見通しとして示すことは果たしてどうなのか、疑問に思います。

弥富市第2次総合計画の前期基本計画に基づき策定されています2019年度から2023年度の中期財政見通しの中には、当然、新庁舎の建設、新火葬場、JR・名鉄弥富駅自由通路整備事業は3大事業として盛り込んでいるはずで、そして、30年度までにおける予算におきましては、新庁舎事業は継続費として、火葬場、JR・名鉄弥富駅整備事業は債務負担行為として予算の議決をし、財政課も財政上も問題ないことを確認して、その上で作成されている前期基本計画です。

表1の2019年度の欄をごらんください。

昨年示された財政見通しにおいて、2019年度は形式収支において7億9,000万円の赤字が計上されておりますが、2019年度当初予算では、当然のことですが歳入歳出プラマイゼロで示されておまして、形式収支において約8億円の乖離となっております。決算時においては、多分もう少し乖離の金額が多くなるものと予想しております。

2018年の欄をごらんになっても同じことが言えます。

第2次総合計画の前期基本計画に基づき作成されている財政の見通しがこのように悪いのなら、当然、現在計画中の事業の見直しも考えなくてはなりません、わずか2カ月前になりますが、12月議会において、第2次弥富市総合計画基本構想前期基本計画も議案として上程されて、我々も議決したばかりであります。

基本目標5. 都市基盤において、JR・名鉄弥富駅自由通路整備事業、基本目標1. 生活環境において、新火葬場建設事業は重点施策として示されております。重点施策とは、全市一丸となって重点的、優先的に取り組むべき主要施策のことをいいます。私としては、これらの重点施策を見直すのであれば、当然のことながら議会に見直しの理由を提示し、しっかりと議論し、そして市民に説明する説明責任があると思います。

これらの点を考慮し、順次質問していきますが、まず最初に、このような財政見通しを示す必要性について、またその真意について伺います。

○議長（堀岡敏喜君） 佐藤財政課長。

○財政課長（佐藤雅人君） 改めまして、おはようございます。

御答弁させていただきます。

本市におきましては、これまでさまざまな行政改革に取り組み、直面する財源不足の解消に努めてまいりました。しかしながら、歳入面におきましては、合併後10年を経過し、普通交付税の額が段階的に縮減されておりますことから大幅な減収が見込まれております。

一方、歳出面におきましても、新庁舎建設事業など投資的経費に対する市債借入額の増加に伴う公債費の増加などが見込まれ、大変厳しい財政状況に直面しております。

今後も少子・高齢化対策、社会保障など福祉関係経費や、公共施設の老朽化への対応などを初めとする行政課題や、新たな市民ニーズに対して的確に対応していくため、中・長期的な視点に立って今後の財政運営を考えていく必要があることから、毎年度この計画を策定しております。

また、その真意といたしましては、今後5カ年の財政見通しを明らかにし、その状況を把握した上で事前に対策を講じていく必要があると考えているものでございます。以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君） 平野議員。

○10番（平野広行君） 先日、近隣他市の中期財政計画がどのようなになっているのか探しておったところ、あま市の中期財政計画がホームページ上に掲載されているのを見つけました。

お手元に配ってありますが、これですね。

29年度から33年度までの5年間のものですが、歳入額も歳出額も同じ額、プラマイゼロで掲載され、年度末の市債残高、基金残高、実質公債費比率、将来負担比率が記載され、市の貯金、借金の残高、借金の危険度、将来世代への負担割合が一目でわかる内容になっております。

私は、このような表示方法がいいと思います。これを見ていただきますと、年度末の市債残高、29年度は約180億、そして33年度には280億になるということ。それから基金の残高は86億が50億と、公共施設の投資になると思いますが、このように減っていくというふうな記載になって、市民の方もこれを見れば、今、市債残高はこれだけだ、年度末基金の残高はこれだけだと、5年たつとこうなるんだと、こういうようなことも一目でわかるようになると思いますので、こういったことも検討していただきたいと思います。

それでは、次に項目ごとに質問をします。

まず、歳入の部においてですが、中期財政見通し、表の1、市税においては2019年度から年々微減しております。2023年度では2億2,100万円減少すると記載されておりますが、この見通しについての考え方を伺います。

○議長（堀岡敏喜君） 佐野税務課長。

○税務課長（佐野智雄君） 御答弁申し上げます。

市税におきましては、景気の回復に伴いまして増加傾向にあったものの、税制改正による法人市民税への影響も懸念されるなど、先行きが不透明な状況にあり、今後も大きな増収は期待できない状況にあることから減収になると見込まれます。以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君） 平野議員。

○10番（平野広行君） 中期財政見通し、市税において2019年度80億6,749万円、2020年度においては2,000万円減の80億4,700万円が計上されています。

しかし、先日行われました2019年度予算の概要説明では、個人市民税、法人市民税合わせて4,900万円の増額、固定資産税では2億1,900万円の増額計上となって、歳入合計の当初予算比では2億7,400万円の増額となっております。

それでは次に、固定資産税の見通しについて伺いたいと思います。

今後の市税収入を見込む場合、市税の58%を占めて、本市の基幹税であります固定資産税の見通しが大変重要になってくるわけでありますが、その見通しについて伺います。

○議長（堀岡敏喜君） 佐野税務課長。

○税務課長（佐野智雄君） 御答弁申し上げます。

固定資産税につきましては、3年ごとの評価がえによる土地・家屋の評価額の増減と、償却資産におけます毎年の通常減価による税額の減少を加味しまして、減収になると見込まれます。以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君） 平野議員。

○10番（平野広行君） 今の課長の答弁では、何かオブラートに包んだような、ざっくりとした答えですが、3年ごとの評価がえ、土地の通常減価額の減少を加味して減収になると見込んでいると、こう答えられているわけですが、昨年稼働しましたレッドウッド弥富ディストリビューション、あるいは弥富トレーニングセンター、西側の部分17ヘクタール、ここの売却によって大型施設の建設が予想され、建屋部分に課税される固定資産税、あるいは導入される償却資産への固定資産税の増額が今後大いに見込まれるはずですが、そして、西尾張中央道沿線への各種物流センターの建設も現在進んでおりますし、今後もさらにふえていくものと考えおります。

以上のことを考えますと、私としては、市税においては微減ではなく増加傾向の財政計画がふさわしいと思っております。

それでは次に、繰入金について伺います。

繰入金において、2019年度8億570万4,000円、2020年度9億7,650万7,000円ですが、2021年度952万9,000円、2022年度952万9,000円、2023年度321万5,000円、さらに2024年度以降は

4,000円しか計上がされておられません、2021年度からは財政調整基金からの繰り入れは必要ないということか、あるいは調整基金が枯渇して財政調整基金からの繰り入れはできないということなのか、繰入金の見通しについて伺いたいと思いますが、また安藤市長も財政調整基金に対しては非常に敏感であります。

参考として、尾張9市の直近の年度末における財政調整基金の残高及び標準財政規模に対する割合の比較もあわせて伺います。

○議長（堀岡敏喜君） 佐藤財政課長。

○財政課長（佐藤雅人君） お答えいたします。

2024年度からは、現状のまま推移していけば、財政調整基金からの繰り入れはできないという見通しでございます。

続きまして、現在、決算指標において公表できるものは平成28年度決算数値となりますので、市役所名、財政調整基金の残高、標準財政規模、割合という形で尾張9市の現状を報告させていただきます。

一宮市、財政調整基金の残高44億4,103万9,000円、標準財政規模707億1,925万2,000円、割合6.3%、津島市、16億184万3,000円、127億6,544万円、割合12.5%、犬山市、15億7,257万円、143億991万9,000円、11%、江南市、27億3,992万円、178億470万1,000円、15.4%、稲沢市、34億2,711万円、285億7,832万2,000円、12%、岩倉市、12億2,782万2,000円、90億929万7,000円、13.6%、愛西市、76億6,730万8,000円、152億7,208万3,000円、50.2%、あま市、41億7,098万円、174億9,631万7,000円、23.8%、最後に弥富市の28年度数値でございます。財政調整基金の残高17億7,782万5,000円、標準財政規模101億5,719万円、割合としまして17.5%でございます。

尾張9市の平均値といたしまして、平均は18%でございますので、弥富市の17.5%は平均の値に近いところでございます。以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君） 平野議員。

○10番（平野広行君） ただいまの答弁では、現状のままでいくと財政調整基金の残高10億円を維持していくためには繰り入れができないと、こういうことですね。

財政調整基金、いわゆる貯金ですが、多いにこしたことはありませんが、実際においては、余分な貯金があるならその分を市民サービスに回すべきだという考えが一般論としてあります。

一般的にどれくらいが適切かと言われますが、一般的に言われているのが自治体の標準財政規模の20%、本市の場合は約100億円が標準財政規模ですから20億円でありまして、平成27年度までは21億円前後で適正な残高を維持してまいりました。

また、最低限の残高は、大型事業等を行うに当たってはどうしても財政調整基金の取り崩

しが必要となってきますので、そのときの残高が標準財政規模の10%に当たる10億円ぐらいと言われております。平成29年度末の財政調整基金残高は約16億円で、今後大型事業が続く中、残高が10億円に向かっているのが現状と認識しております。

財政課から尾張9市の標準財政規模に対する財政調整基金残高の割合が今示されましたけど、平成28年度の決算数値において10%を下回るのは一宮市だけで、6.3%となっております。本市は愛西市の50.2%、あま市23%に次いで3番目でありまして、17.5%となっております。愛西市とかあま市の数値が高いのは、合併時において、合併自治体数が多いからと思っております。

これらのことから、本市としては今後の事業の進め方として、10億円の財政調整基金残高を維持していく財政計画を立て、あわせて第2次総合計画の基本構想前期基本計画に基づき事業を進めるべきと考えております。

続いては、市債について伺います。

歳入において大きな役割を示すのが市債、借金ですね。平成29年度末の市債の残高は、本市の場合100億5,000万円で、合併時の平成18年度残高95億5,000万円とほとんど変わっておりません。弥富中学校、日の出小学校、弥生保育所、白鳥保育所等さまざまな公共施設を建設するに当たっては、事業費への起債充当率、後年度において40%、70%の交付税措置を受ける合併推進債等、非常に有利な条件での起債が行われ、財政調整基金の取り崩しを最小限に抑えて財政運営が行われてきたものと思っております。今では新庁舎建設事業のように1事業に対して50億円というような多額の起債をすることはありませんでした。そして、市債残高もここ数年は返済が順調に進んで減少してきておりますが、ここに来て、一度に多くの事業が重なってきました。

今後予定されている5大事業に対してどのような形の起債をしていくのか、考えを伺います。2019年度から2023年度までの5年間の財政見通しに示されている起債額に対して、事業、起債メニュー等について伺います。

○議長（堀岡敏喜君） 佐藤財政課長。

○財政課長（佐藤雅人君） 御答弁申し上げます。

まず1つ目の事業といたしまして、新庁舎建設事業におきましては平成29年度から平成31年度までの継続事業といたしまして、起債メニューといたしましては緊急防災・減災事業債、これは充当率100%で交付税措置率70%でございます。あわせて合併推進債を借りることになります。充当率90%、交付税措置率40%でございます。

続きまして、小学校空調整備事業でございます。これは平成30年度、平成31年度の繰越事業となりまして、起債メニューといたしましては学校教育施設等整備事業債、充当率100%、交付税措置率、補助裏分の60%でございます。

続きまして、小学校長寿命化改良事業でございます。これも平成30年度、31年度の繰越事業となりまして、起債メニューといたしましては学校教育施設等整備事業債、充当率100%、交付税措置率といたしまして補助裏分の60%でございます。

続きまして、火葬場整備事業になります。事業年度といたしましては平成32年度以降の事業となりまして、合併推進債、充当率90%、交付税措置率40%を予定しております。

続きまして、JR・名鉄弥富駅整備事業でございます。これも平成32年度以降の事業となりまして、起債メニューといたしましては公共事業等債ということで、補助裏分の充当率90%、そのうちの40%に対して交付税措置率50%、あわせて一般事業債、充当率75%、交付税措置率はこれございません。

現在のところ、このような起債のメニューを考えておりますが、事業の実施時期等により、その時点で最良のメニューを選択してまいります。以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君） 平野議員。

○10番（平野広行君） 今の説明によりますと、JR・名鉄弥富駅整備事業の起債が一般事業債で充当率75%、交付税措置率0%ということで、計画中の5大事業の中では起債条件が一番悪いということがわかりました。このことがJR・名鉄弥富駅自由通路整備事業の予算計上がなされていない理由の一つかなあと考えざるを得ません。

それでは次に、今後予定されている5大事業を遂行するには、2019年度から2023年度にかけての5年間で約74億円起債する計画になっております。このため、各年度における公債費は、2021年度までは11億円台で現在と変わっておりませんが、2024年度では約14億円台が計上され、現在に比べると3億円負担が多くなります。そして、このことが財政に及ぼす影響について伺います。起債してすぐに返済ではなく、起債メニューにおいて据置期間が違います。1年のもの、3年のもの、いろいろありますので、公債費のピークはいつごろになると見込んでいるのか伺います。

○議長（堀岡敏喜君） 佐藤財政課長。

○財政課長（佐藤雅人君） お答え申し上げます。

起債を発行する年度にもよりますが、現在のところ2023年度から2026年度ころが多くなると予測をしております。以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君） 平野議員。

○10番（平野広行君） 昨年の3月議会におきまして同様の質問をしましたが、それ以降、事業数が増減してきておりますので、再度質問をいたします。

財政の硬直化を判断するには、公債費の負担度合いを見る指標として公債費負担比率がありますが、公債費負担比率の過去5年間の推移と今後予想される最大値はどれぐらいか、また一般的に安全な値はどれぐらいと考えられているのか伺います。

○議長（堀岡敏喜君） 佐藤財政課長。

○財政課長（佐藤雅人君） お答えいたします。

弥富市の公債費負担比率、平成25年度におきましては10.5%、平成26年度におきましては10.8%、平成27年度におきましては9.8%、平成28年度におきましては10.7%、平成29年度におきましては10.4%でございます。また、今後予想される最大値といたしましては13.7%を予測しております。

続きまして、公債費負担比率は財政構造の弾力性を判断する指標の一つで、公債費に充当された一般財源の一般財源総額に対する割合を示す指標で、その数値が高いほど財政運営が硬直化していることを示しております。一般的には財政運営上15%が警戒ライン、20%が危険ラインとされております。以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君） 平野議員。

○10番（平野広行君） 予定どおり5大事業を進めていっても、財政運営上公債費の警戒ラインである15%を下回る13.7%であって、借金の返済に問題はないと考えられますが、そのように理解してよろしいですね。

それでは、公債費負担比率を近隣市、類似団体と比較してどうなのか伺います。

○議長（堀岡敏喜君） 佐藤財政課長。

○財政課長（佐藤雅人君） お答え申し上げます。

これにつきましては平成29年度の数値でございます。

近隣市、津島市、稲沢市、岩倉市、愛西市、あま市の平均値は11.2%で、本市は平均より低くなっております。

一方、近隣の類似団体でございます。高浜市、北名古屋市、長久手市、蟹江町の平均数値は7.8%で、本市は平均より高くなっております。以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君） 平野議員。

○10番（平野広行君） 今の答弁で29年度の数値ですが、尾張6市の中では稲沢市12.1、愛西市12.5、平均値11.2というふうに伺っております。本市は10.4%で平均値を下回っていることがわかります。近隣他市と比較をしても問題ないことがわかりました。

時間がないので、8番の項目は飛ばします。

佐藤高次議員が12月議会一般質問で行った財政黒字化に向けて具体的手段はの質問に対して、市側は公共施設再配置計画に基づき公共施設の統廃合を推進していくと答弁し、また安藤市長は3年後をめどに黒字化を目指すと言明をされておりますが、短期間で行うには大なたを振るう覚悟が必要であると思っております。

財政課として具体的な取り組み、また31年度予算においてどのように反映されているのか伺います。

○議長（堀岡敏喜君） 佐藤財政課長。

○財政課長（佐藤雅人君） 御答弁申し上げます。

本市の財政調整基金の残高は、平成29年度末で約15億8,986万円でございます。これは平成25年度と比較して約5億4,100万円減少しております。そうした中、標準財政規模の10%、約10億の確保はできておりますが、今後の大規模事業が控える中で少しでも多く基金を確保していくことが必要と考えております。

平成31年度の予算編成につきましては、前年度、平成29年度の決算額を参考に、できるだけ財政調整基金の繰り入れを少なくするよう予算編成をさせていただきました。以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君） 平野議員。

○10番（平野広行君） 結論としては、私は公共施設の統廃合の推進は短期間ではできないと考えております。31年度の予算編成は前年度決算額で実績ベースでの算定と説明されましたが、31年度予算書を見る限り、さまざまな予算項目において大幅な削減、減少となっております。

また、12月議会で議決しました第2次弥富市総合計画における前期基本計画に明記されておりますJR・名鉄弥富駅整備事業についても削除されております。12月議会において議決した第2次弥富市総合計画に記載されている事業であるJR・名鉄弥富駅整備事業の予算が上げられていないのは不思議でなりません。

私の質問の中で、確かに事業を進める上で、財政上市からの持ち出しが一番多く、財源が一番厳しい事業はJR・名鉄弥富駅整備事業であることは十分理解できます。しかし、議会において議決した事業です。説明もなく予算削除はいかがなものかと思えます。

先ほども、今後の大型事業を進める上での起債額、公債費の推移、近隣市との比較もし、特段事業の遂行に支障を来すことはないと思われませんが、今、課長は今後の大規模事業に備え、少しでも多くの財政調整基金を確保するため、財政調整基金の繰り入れを少なくする予算編成をしましたと答弁されました。これらのことから考えますと、まさに31年度予算は財政黒字化を短期に目指すための大なたを振るった予算であると考えざるを得ません。

もう一度言いますが、わずか2カ月前に議決した事業計画を納得のいく説明もなしに削除するのはいかがなものかと思えます。財政計画に基づく事業の廃止、延期も含め、市長の考えを議会、市民に対して示し、議論し、納得した上での行政運営をすべきだと思えます。

予算内容についてはあすの議案質疑でしっかりと質問しますので、次は市長に伺いますが、歳入歳出に向けてさまざまな角度から今質問をしてきましたが、弥富市の財政健全化に向けての市長の考え方、財政健全化に向けての市長の覚悟、これを伺います。

○議長（堀岡敏喜君） 安藤市長。



○市長（安藤正明君） 31年度の新年度予算編成につきましては、市民の皆様初め議員各位には大変御迷惑をおかけしましたことを心よりおわびを申し上げる次第でございます。

本市におきましては、来年1月には新庁舎建設が完了しますが、JR・名鉄弥富駅整備事業や新火葬場建設事業などの大型事業が控えております。そうした中、財政調整基金残高も今後減ってまいりますので、中期財政計画でお示しましたように、今後は形式収支のマイナスが想定されるわけでございます。

したがって、事務事業を徹底的に見直し、より一層行政改革を推進していかなければならないと考えております。

また、議員の皆様のお知恵もおかりしながら進めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○議長（堀岡敏喜君） 平野議員。

○10番（平野広行君） 今、市長が述べられたことは31年度予算との整合性がとれませんよ。

予算書にはJR・名鉄弥富駅整備事業費は上がってはおりません。財政が厳しく基本計画に示された事業が遂行できないのなら、まずはみずから身を切る覚悟が必要ではないでしょうか。財政の黒字化ができるまで、みずからの市長報酬をカットするとか、我々議員の報酬もカットするとか、そういったことを市民に示してから市民の皆様にも事業の削減、減額をお願いする。そうでないと市民の理解は得られませんよ。

そして、事業遂行の優先順位をしっかりと見定め、基本計画に基づき事業を遂行していくべきだと思います。

尾張9市の中でも弥富市は財政力はトップです。ただ問題なのは、今後取り組むこととなりますが、公共施設の方針であります。本市の老朽化比率は64.2%で大変悪い数値となっております。新庁舎の建設、火葬場の新設、桜小学校の改修等が済めば、老朽化比率も改善されてきます。これらの事業を順調に進めるには、さまざまな財政指数を検証し、事業の見直しも含め財政運営を進めていくことが大事であります。

安藤市長は市長に就任して間もない初めての予算編成です。財政の健全化を早期に目指す気持ちはわかります。何度も言いますが、前期基本計画に重点施策として議決した事業を予算に上げないのは考えられません。このような予算編成に当たっては、副市長、総務部長を初めとする各部長はどういった説明を市長にしたのか、説明しても市長が聞き入れなかったのかどちらかですが、結果としては予算計上はなされていない。これは事実です。幹部の方全員に責任がありますよ。しっかりと反省していただきたい。

今後二度とこのようなことがないように、私は市民の代弁者として強く申し上げておきます。

市長、多くの市民の皆様が安藤市長に期待して選んだわけですから、市民の期待に応える市政運営を行わなければなりません。

2月22日の中日新聞に弥富市の31年度予算の内容が掲載されましたが、その寸評の中で、安藤市長には財政を好転させる道筋を示してほしいと書かれておりました。弥富市は人口減少もなく、ほとんど横ばいでありますし、西部臨海工業地域、鍋田埠頭、弥富埠頭を中心とした港湾流通産業の向上が歳入においてはしっかりと担保できておりますから、あとはいかにして市民サービスを低下させることなく、うまくお金を使っていくことが大事であります。

歳出を抑えながら財政を好転させる道筋を早急に描き、議会にも市民にも理解をいただい  
てから実行すべきであることを強く申し上げておきます。

弥富市のトップとしてまず第一に考えることは市民サービスを低下させないこと、そしてさらに向上させることだと思います。市長はお金をためてからと言ってみえますが、そうではないと思います。本来、市の行政運営は市民の方からいただいている税金で行っております。皆さんからいただいたお金をいかにうまく配分して市民へのサービスとして還元していくかということであります。職員の努力によって予算を下回る事業を行うことによって、結果的に不用額が生じた場合は財政調整基金へ積み立てることだと思っております。

若い人からお年寄りまで、弥富に住んでよかった、住み続けてよかったと、市民の皆さんに喜んでいただける弥富市をつくっていただくことが一番大事なことを申し上げ、私の一般質問を終わります。

市長、答弁ありますか、最後に。今のことに對して。

○議長（堀岡敏喜君） 安藤市長。

○市長（安藤正明君） 今回の件につきましては、本当に皆様に御迷惑をかけたところでございます。

ただいま平野議員のほうからいろいろと御教授いただいたわけですが、そのことを真摯に受けとめまして、新しい弥富市に向かって邁進してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○議長（堀岡敏喜君） 平野議員。

○10番（平野広行君） しっかりお願いします。終わります。

○議長（堀岡敏喜君） 暫時休憩といたします。再開は11時10分とします。

~~~~~ ○ ~~~~~

午前10時59分 休憩

午前11時10分 再開

~~~~~ ○ ~~~~~

○議長（堀岡敏喜君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、高橋八重典議員、お願いします。

○4番（高橋八重典君） 4番 高橋八重典でございます。

議長のお許しを得ましたので、通告に従いまして質問をさせていただきます。

それでは、1点目の質問に入らせていただきます。

1問目は、ニートの中年化・8050問題と題して伺ってまいります。

近年、少子化に伴って労働人口減少により、特に中小企業は社員の確保に苦慮されております。そんな中、潜在的労働人口が眠ったままになっている現実はどう向き合うかです。

本来であれば社会人として働いているべき人たちがニートと言われております。

そもそもニートとは何か御存じでしょうか。就学・就労しておらず、職業訓練も受講していない人をニートや若年無業者と呼ぶとされております。全国で2002年以降、70万人を超える人口が今もなお横ばいになっている傾向にあると言われております。

厚生労働省が委託支援事業で行っている若者サポートステーション、通称サポステや、各都道府県が設置している若者のためのワンストップサービス、通称ジョブカフェなど、国や都道府県も積極的に取り組んでいますが、なかなかよい結果が出ていないのが現状です。

高齢者の8020運動は皆さん方よく知られておると思いますが、今回の題にもなっております8050問題とは何か。80代の親が50代の子供の生活を支えるという問題です。背景にあるのは子供のひきこもりです。「ひきこもり」という言葉が社会に出始めたのは、1980年代から1990年代には若者の問題とされておりましたが、約30年がたち、当時の若者が40代から50代に、その親が70代から80代になり、長期・高齢化し、こうした親子が社会から孤立し、生活が立ち行かなくなる深刻なケースが目立ち始めているのが現実としてあります。

2018年1月には、札幌のアパートの一室で82歳の母親と52歳の娘が遺体で発見されました。2人の死因は栄養失調による衰弱死で、母親が先に亡くなられて、しばらくしてから娘さんが亡くなった悲しい事件が起きております。

今の時代、これだけ物があふれ、世界で食品ロスは年間約13億トン、食品の3分の1が捨てられると言われていた時代に、日本においては国民1人当たり約139グラム、お茶わん1杯分毎日捨てていると言われております。栄養失調によって衰弱死する人がいることを今回知り、非常に危機感を覚えました。

日本の社会は、以前一億総中流社会と言われた時代がありましたが、しかし今の日本は格差社会化していて、企業もコスト競争が激しくなっているため、非正規や派遣の数も増加していることが現実です。職場環境が悪化し、精神的に傷つけられたり、残業を強制されたりすることにより、防衛本能からひきこもる人たちもいます。

このような現実を目の前にして、本市の実情を確認させていただきます。現在、本市においてニートの人口は把握されておりますでしょうか、伺います。

○議長（堀岡敏喜君） 山下福祉課長。

○民生部次長兼福祉課長（山下正巳君） お答えします。

厚生労働省がニートの定義を15歳から39歳の非労働力人口のうち、家事も通学もしていない者としており、ニート人口については、内閣府が毎年公表しております子供・若者白書において、平成27年は75万人、平成28年は77万人、平成29年は71万人となっております。

弥富市のニートの人口につきましては、調査をしておりませんので、把握はできておりません。

○議長（堀岡敏喜君） 高橋議員。

○4番（高橋八重典君） 本市としての人口把握はされていないという答弁でしたが、全国的統計の中で中年層のニート、中でも35歳以上のニートの人口はどれだけでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君） 山下福祉課長。

○民生部次長兼福祉課長（山下正巳君） 先ほど申しました子供・若者白書によりますと、35歳から39歳までのニート人口につきましては、平成27年は19万人、平成28年は20万人、平成29年は18万人となっております。

○議長（堀岡敏喜君） 高橋議員。

○4番（高橋八重典君） 今現在、本市として支援事業は何かありますでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君） 山下福祉課長。

○民生部次長兼福祉課長（山下正巳君） 本市の支援事業につきましては、生活困窮者を対象にした生活困窮者自立支援制度の中で、市社会福祉協議会に委託をしております自立支援相談センターで自立支援相談や就労支援などを行っております。

また、社会福祉協議会事業でございますが、毎月第2、第3、第4水曜日に心配ごと相談を実施しておりますので、御活用いただければと思います。

○議長（堀岡敏喜君） 高橋議員。

○4番（高橋八重典君） 国や県も含めて利用できる支援はどうでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君） 山下福祉課長。

○民生部次長兼福祉課長（山下正巳君） 国等が行っている支援といたしましては、厚生労働省が委託し、働くことに悩みを抱えている15歳から39歳までの若者を対象に専門的な相談、コミュニケーション訓練や就労体験などの支援を行う地域若者サポートステーション（サポステ）、都道府県が主体的に設置し、若者の就労支援やワンストップで行う若年者のためのワンストップサービスセンター（ジョブカフェ）、公共職業安定所（ハローワーク）や都道府県及び政令指定都市に設置され、相談事業や情報発信などを行うひきこもり地域支援センターなどの支援が行われております。

○議長（堀岡敏喜君） 高橋議員。

○4番（高橋八重典君） 物的支援に、それから精神面から支援、特に精神面を含んだメディカルケアが大事と考えます。精神的に追い込まれるケースが考えられるからです。

そのために医療機関と連携した医療ソーシャルワーカーなどの設置をすべきと考えますが、いかがでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君） 山下福祉課長。

○民生部次長兼福祉課長（山下正巳君） ニートやひきこもり状態になった要因には、病気やけが、求職をしたが見つからない、自分の能力や知識に自信がない、コミュニケーションをとるのが苦手など、人によってさまざまな要因があります。また、その対応も複雑で難しく、議員の言われる医療ソーシャルワーカーを含め、医療、相談、福祉、就労などの支援を各分野が協力連携した包括的な支援をしていくことが必要になってくると思っております。

○議長（堀岡敏喜君） 高橋議員。

○4番（高橋八重典君） この8050問題を市としてどう受けとめ、対策されていくのか伺います。

○議長（堀岡敏喜君） 山下福祉課長。

○民生部次長兼福祉課長（山下正巳君） これまでニートやひきこもりが若い世代の問題として捉えられてきておりましたが、今、中高年のひきこもりなどが問題視され、社会とのつながりが薄く、家族だけで課題を抱え込み、支援される立場であった親の高齢化で80代の親が50代の子供の面倒を見るという問題がいわゆる8050問題です。

この問題は長期化するほど解決が難しくなり、病気や介護、経済的困窮などの問題が複合的に絡み、他自治体においても対応に苦慮している状態であり、難しい問題であり、重要な課題であると考えております。

市としましても関係各機関と連携をとり、問題を抱えている方が相談できる体制づくりが必要であると考えております。

○議長（堀岡敏喜君） 高橋議員。

○4番（高橋八重典君） 8050問題は簡単に解決できる問題でないことは重々承知しておりますが、簡単ではないからこそ今から対策をとっていかなければならないと考えます。中年ニートの末路などの記事が書かれたりしておりますが、結果、支えていた親が亡くなった後には、大半の方が生活保護の生活となるのは予想できます。

そこで、本市の直近の生活保護事業実績を伺います。

○議長（堀岡敏喜君） 山下福祉課長。

○民生部次長兼福祉課長（山下正巳君） 生活保護事業の実績でございますが、平成28年度4億4,801万5,559円、うち扶助費が4億2,867万5,436円でございます。平成29年度4億1,322万3,523円、うち扶助費が4億174万5,347円でございます。

○議長（堀岡敏喜君） 高橋議員。

○4番（高橋八重典君） 今答弁いただいたとおり、毎年4億円以上の事業費がかかっている

わけです。来年度の予算においても4億2,631万8,000円が計上されております。この金額が将来増加していくことは予想できます。今後、5年後及び10年後、どこまで生活保護事業費が膨らむと考えるか伺います。

○議長（堀岡敏喜君） 山下福祉課長。

○民生部次長兼福祉課長（山下正巳君） 生活保護事業の大半を占めます扶助費につきましては、世帯数だけではなく、世帯構成、年齢、通院治療、障がいの有無などにより支給される金額が決定してまいります。

議員御質問の5年後、10年後の生活保護事業費につきましては、超高齢化社会を迎えることや、中高年ニートの影響などがどれくらいになるか、現時点では見込むことができておりません。

○議長（堀岡敏喜君） 高橋議員。

○4番（高橋八重典君） 現時点での5年後、10年後の見込みは予想できないとの答弁でしたが、社会環境を加味して考えれば増加傾向が見込めると思います。

今、市長が来年度予算において経費節減に向けて取り組んでみえますが、8050問題のように放置しておくとも自然増になる問題こそ、正面から取り組んでいただくことで、将来的に予算の経費節減につなげていただきたいと思います。

最後に、市長のお考えを伺います。

○議長（堀岡敏喜君） 安藤市長。

○市長（安藤正明君） 高橋議員の言われるとおり、ニートの中年化、8050問題は大変深刻な問題であるというふうに認識をしているところでございます。さまざまな要因があって若年のうちにそういう状況になってしまい、だんだんと年齢を重ね、青年、そして中高年というふうにそのまま進んでしまうというふうに思っているところで、そういう状況は今後さらに深刻化する懸念が現時点にあるというふうに思っているところでございます。

こういった状況にならないようにするためには、できるだけ年齢が若いうちにさまざまな支援を通して解決に導くことができれば望ましいことと思いますが、実際のところ、現時点におきましては対象者を把握することも難しく、有効な手だてがとれていない現状があると思っているところでございます。

また、本人や家族の方にとって深刻な問題であると同時に、社会全体にとっても深刻な問題であり、時間の経過とともに影響が大きくなっていくことだと考えますが、市行政のみでできることにも限界がございますので、関係各所と連絡を深めるとともに、地域の方々の協力もいただき、地域全体で包括的な支援を行っていくことが課題ではないかと思っているところでございます。以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君） 高橋議員。

○4番（高橋八重典君） ありがとうございます。

この8050問題につきましては、本当に難しい問題ではあると思いますが、先ほど申しましたように、将来の経費の節減等も考えますと、早急に取り組む必要があると思いますので、よろしくお願い申し上げます。

続きまして、2問目に入らせていただきます。

2問目は、高齢者に生きがい目標をと題して伺ってまいります。

報道等で毎日のように少子・高齢化という言葉を目にします。少子化対策はすぐに解決できる問題ではなく、時間をかけ計画的に対策をとらなければならないということは言うまでもありません。

反対に高齢者に関しては、時間をかけず早急な対策が求められております。高齢者問題は多種にわたり問題を抱えております。医療、介護、年金などの問題、近年全国的に報道で取り上げられているのが高齢者による自動車の運転による交通死亡事故の増加問題などがあります。どの問題も早期対応が必要な分、特効薬となる対策がないということです。しかし、今の経済成長をお支えいただいたのが高齢者と言われる大先輩方であることも事実であります。

今回、当市の事業見直しの中に敬老事業見直しが上げられていますので、順次お伺いいたします。

この部分につきましては、きのうまでの一般質問等で重複する部分もございますので、その部分も加味しながら伺ってまいりたいと思います。

まず、確認の意味も含めまして、改めて65歳以上の高齢者人口を伺います。

○議長（堀岡敏喜君） 藤井介護高齢課長。

○介護高齢課長（藤井清和君） 平成31年1月末時点で1万1,356人です。

○議長（堀岡敏喜君） 高橋議員。

○4番（高橋八重典君） 当市の総人口に占める割合を伺います。

○議長（堀岡敏喜君） 藤井介護高齢課長。

○介護高齢課長（藤井清和君） 平成31年1月末時点での当市の人口が4万4,411人でありますので、25.5%となります。

○議長（堀岡敏喜君） 高橋議員。

○4番（高橋八重典君） 今御答弁いただいたとおり、既に4人に1人が高齢者となっております。

65歳以上75歳未満の前期高齢者の皆さん、現役で仕事をされておられる方もたくさんいらっしゃいます。今の時代、70歳未満の方は現役世代でいいと私個人は思います。

高齢者の中で75歳以上の後期高齢者人口を伺います。

○議長（堀岡敏喜君） 藤井介護高齢課長。

○介護高齢課長（藤井清和君） 同じく平成31年1月末時点で5,693人です。

○議長（堀岡敏喜君） 高橋議員。

○4番（高橋八重典君） 今答弁いただいたとおり、5,693人の方々が市内には住んでおみえです。高齢者人口のうち50.13%を後期高齢者が占めております。高齢者の中でも後期高齢者の方々が元気で生活いただくことは、介護、医療費などの軽減に貢献いただいていると私は考えます。

きょうのこのクローバーテレビで中継されておりますが、その視聴者のほとんどが多分高齢者の方と思います。このカメラの向こうにその方々がいっぱいいらっしゃると思いますので、この後のお伺いすることも、答弁者の方々は議場にはではなく、カメラに向かって答えていただきたいと思います。

市内で行う敬老事業で主な事業はどのようなものがあるか伺います。

○議長（堀岡敏喜君） 藤井介護高齢課長。

○介護高齢課長（藤井清和君） 結婚50周年を祝う金婚式、88歳の方への米寿のお祝い品の贈呈、80歳以上の方を対象に長島温泉に招待する敬老会、以上3事業を行っております。

○議長（堀岡敏喜君） 高橋議員。

○4番（高橋八重典君） まず、88歳の米寿のお祝いの品贈呈での対象人数と経費を伺います。

○議長（堀岡敏喜君） 藤井介護高齢課長。

○介護高齢課長（藤井清和君） 平成29年度は、196の方に座椅子を贈呈し約122万円、平成30年度も171の方に座椅子を贈呈し約103万円です。

○議長（堀岡敏喜君） 高橋議員。

○4番（高橋八重典君） 来年度の予定を伺います。継続するのか見直しをするのか、それも含めてお答えください。

○議長（堀岡敏喜君） 藤井介護高齢課長。

○介護高齢課長（藤井清和君） お祝いの品を贈呈する形は変わりませんが、1人当たりの単価を6,000円から5,000円に減額をさせていただきました。贈呈をさせていただく品物等につきましては現在未定です。

○議長（堀岡敏喜君） 高橋議員。

○4番（高橋八重典君） 次に、金婚式について伺います。

この事業は自己申告のため、実績での参加数でしかお聞きできませんが、その参加された方々の人数と経費を伺います。

○議長（堀岡敏喜君） 藤井介護高齢課長。

○介護高齢課長（藤井清和君） 平成29年度は84組の方に御参加をいただき、経費は228万



3,000円、平成30年度につきましては58組の方に御参加をいただいております。なお、経費につきましては、事業を社会福祉協議会に委託しており、事業の精算が年度末になるため、現時点では確定しておりません。

○議長（堀岡敏喜君） 高橋議員。

○4番（高橋八重典君） 今の御答弁のように、今年度で58組116名の方が参加いただき、私たち議員もお祝いに参加させていただきました。

御夫婦がお元気でなければ参加いただけないので、私たち議員の中の大原議員も御夫婦で参加されておりましたが、行く行く参加される方々もいらっしゃると思います。特に参加いただきました58組の方々には敬意を表します。

それでは、来年度の予定を伺います。

○議長（堀岡敏喜君） 藤井介護高齢課長。

○介護高齢課長（藤井清和君） 金婚式の式典につきましては予定どおり行いますが、記念品につきまして、記念写真は引き続きお撮りさせていただきますが、記念品の置時計につきましては31年度からなくしました。

○議長（堀岡敏喜君） 高橋議員。

○4番（高橋八重典君） 最後に、80歳以上が対象となる敬老会について、対象人数と参加者、経費を伺います。

○議長（堀岡敏喜君） 藤井介護高齢課長。

○介護高齢課長（藤井清和君） 平成29年度は3,552人の方を対象に699人の方に御参加をいただき、経費は483万円、平成30年度につきましては3,717人の方を対象に685人の方に御参加をいただいております。なお、経費につきましては、事業を社会福祉協議会に委託しており、事業の精算が年度末になるため、現時点では確定しておりません。

○議長（堀岡敏喜君） 高橋議員。

○4番（高橋八重典君） 毎年元気で健康に生活された方々に敬意も含め、市からの御褒美であったと思います。前市長も、この事業については対象者全員が参加いただけるのが理想だということでございましたが、現実として会場にお越しいただける方々に感謝の意味も込めた御褒美であると発言されていたと思われました。

しかし、今回事業の見直しで、この事業は平等ではないとのことでやめると報告をいただきました。

再度お伺いいたします。やめる明確な理由をお知らせください。

○議長（堀岡敏喜君） 安藤市長。

○市長（安藤正明君） 敬老事業3つのうち、特に敬老会につきましては、昨日も答弁をさせていただきましたとおりでございますが、再度お答えさせていただきます。

愛知県下、近隣市町村の敬老会事業等の事業実施状況を調べてみると、当市のように80歳以上の方全てを対象に長島温泉へ招待して開催している敬老事業はまれであり、対象者を88歳や100歳など節目の年などで限定して事業を実施している状況でございます。

そうしたことから、新年度は、映画祭などほかの行事と合同開催する案や、対象者を数え80歳限定で長島温泉への招待を継続する案など検討させていただき、新年度予算を縮減させていただいたところでございます。

しかしながら、これも一度議員や市民の皆様の御意見をお聞きしながら方向性を決めていく必要があると考えまして、新年度は現行どおり実施し、新年度中にその方向性を定めていきたいと考えております。また、いろいろと御意見を伺うと思っておりますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○議長（堀岡敏喜君） 高橋議員。

○4番（高橋八重典君） 事業をやめるのではなく、見直すという今答弁をいただきましたが、最低でも見直すということは時間をかけてやっていただきたいと思えます。

重複する部分もありますので、今回いろいろな事業中止や凍結が言われておりますが、いきなり来年度ではなく、せめて再来年度以降に向け検討する時間をとっていただき、皆さんの意見を反映していただきたいと思えますが、その辺のところはどうでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君） 安藤市長。

○市長（安藤正明君） ただいま高橋議員がおっしゃられたとおりでございます。皆様の意見をしっかりと聞きながら、新しい弥富市に向かっていろいろな予算を組んでまいりたいと思えます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

○議長（堀岡敏喜君） 高橋議員。

○4番（高橋八重典君） 先ほど平野議員の一般質問の中にもございましたが、12月定例会で示されました第2次弥富市総合計画基本構想案の中にもございました2019年から10年間の財政見通しも、本当に変わるのであれば再検討されるべきでございますし、その辺のところも市民のほうにいろいろわかりやすく説明していただきたいと思えます。

最後になりますが、今後このようなことが起きないように、市長には、今回の予算編成等を含めまして、皆さん方にどのような形で対応されるのかということをお時間をとっていただきまして説明をいただくというのが私からのお願いでございます。

せっかく私たちがお支えしました市長がこのようなことになるのは、本当に残念でございます。そういったことも含めまして、私たち市議会議員も今回のようにいきなり言われましても、市民のほうから説明を求められましても説明することも全くできません。お支えするつもりがお支えできなくなるというのは本当に悲しいことでございます。どうかこの弥富市の行政をとめない、前に進めるためにも、どうか安藤市長、これからもよろしくお願い申し

上げます。

これで私の一般質問を終わります。

○議長（堀岡敏喜君） 通告のありました一般質問は全て終了をいたしました。

ここで暫時休憩といたします。開会は午後2時ちょうどといたします。

~~~~~ ○ ~~~~~

午前11時42分 休憩

午後2時00分 再開

~~~~~ ○ ~~~~~

○議長（堀岡敏喜君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

御報告をいたします。

報道機関から写真撮影の許可されたい旨の申し出がありました。

よって、弥富市議会傍聴規則第9条の規定により許可をいたしましたので、御了承をお願いいたします。

2月27日、市長から提出された議案第1号平成31年度弥富市一般会計予算について、本日付をもって訂正したい旨の申し出があります。

この際、議案第1号平成31年度弥富市一般会計予算の訂正についてを日程に追加し、議題とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（堀岡敏喜君） 異議なしと認めます。

よって、この際、議案第1号平成31年度弥富市一般会計予算の訂正についてを日程に追加し、議題とすることに決しました。

~~~~~ ○ ~~~~~

### 日程第3 議案第1号平成31年度弥富市一般会計予算の訂正について

○議長（堀岡敏喜君） 議案第1号平成31年度弥富市一般会計予算の訂正についてを議題といたします。

安藤市長に日程第3、議案第1号平成31年度弥富市一般会計予算の訂正理由の説明を求めます。

安藤市長。

○市長（安藤正明君） 最初に、今回このような当初予算の訂正をお願いすることになりましたことを心からおわび申し上げます。今後このようなことがないよう心がけてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、議案訂正につきまして御説明申し上げます。

去る2月27日に提出をいたしました議案第1号平成31年度弥富市一般会計予算について、

議案を訂正したいので、弥富市議会会議規則第19条第1項の規定により、議会の承認を求めらるるものでございます。

このたびの訂正につきましては、議員の皆様、市民の皆様からさまざまな御意見をいただいたこと等を踏まえまして、JR・名鉄弥富駅自由通路・橋上駅舎化事業及び新火葬場建設事業を引き続き推進していくための関連経費を計上するものとともに、扶助費、学校・保育所等公共施設の修繕工事などの予算を増額訂正するためのものでございます。

また、あわせて当初予算に計上させていただきました桜小学校の長寿命化改良工事につきまして、国の平成30年度第2次補正予算で交付金が措置されることになり、今回、平成30年度の補正予算として計上させていただきますので、その予算額を当初予算から減額訂正させていただきますものでございます。

以上が議案訂正の概要でございますが、議案訂正の詳細については総務部長から説明いたしますので、よろしく御審議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（堀岡敏喜君） 次に、訂正内容の説明を総務部長に求めます。

渡邊総務部長。

○総務部長（渡邊秀樹君） 御説明申し上げます。

議案第1号平成31年度弥富市一般会計予算の訂正につきましては、歳入歳出それぞれ7,510万8,000円を減額訂正し、歳入歳出予算の総額を171億4,489万2,000円に訂正するものでございます。

歳入予算の主な訂正内容につきましては、民生費国庫負担金1億668万2,000円、民生費県負担金2,559万円を増額訂正する一方、教育費国庫補助金1億8,389万3,000円、公共施設整備基金繰入金3,597万4,000円、教育債3億4,840万円を減額訂正するものでございます。

歳出予算の主な訂正内容につきましては、新庁舎建設事業の庁用器具費1億2,000万円、介護給付費・訓練等給付費4,156万2,000円、生活保護事業の医療扶助費4,300万円、JR・名鉄弥富駅自由通路整備負担金1,600万円を増額訂正する一方、小学校修繕等工事請負費5億3,175万円を減額訂正するものでございます。

なお、小学校修繕等工事請負費につきましては、工事箇所をふやすための増額もございまして、桜小学校の長寿命化改良工事を減額訂正するため、全体では大きく減額訂正となっているものでございます。以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君） これより質疑に入ります。

質疑の方はありませんか。

〔挙手する者あり〕

○議長（堀岡敏喜君） 大原議員。

○16番（大原 功君） では、質疑させていただきます。

この訂正した金額、これは一体幾らかかったかということと、それからこれに係る職員の費用、幾らですか。

まずそれだけ先に。

○議長（堀岡敏喜君） 安藤市長。

○市長（安藤正明君） 今回の訂正の書類につきましての印刷費、そしてまた人件費等については、ちょっと今把握できておりません。

○議長（堀岡敏喜君） 大原議員。

○16番（大原 功君） 議長、注意してください。

お金が幾らかかったかということを行っているんですから、金額を述べてもらわないと、これは市民税でつくられておるわけね。市民税は、きのう一般質問でもやりましたけれども、滞納者、国保にしても市民税にしても6億8,000万あるわけだね。それについても、それからその差し押さえについても185件あるわけだ。これだけ苦しい人が払いたくても払えない。これは憲法30条によって義務、これは払わなきゃいかん。でも、今は払えないけれども、いつか子供さんが大きくなったときには、やっぱり弥富市に迷惑をかけたから払いたいという人がおるわけなの。こういうことを考えて、なぜ今の金額がこれだけのお金をかけてやったのか、その金額を教えてください。

それから、職員のこれについてそれぞれの費用がかかりますね、当然、そうでしょう。安藤市長、これは予算の説明だから、予算に入るんですから、お金は。

議長、よく注意してください。金額を教えてください。

○議長（堀岡敏喜君） 安藤市長。

○市長（安藤正明君） ただいまの質問でございますが、確かな金額は申し上げられませんものですから、間違った金額をお伝えすることはできませんものから、答弁を差し控させていただきます。

○議長（堀岡敏喜君） 安藤市長、調べて大原議員にお伝えするようにお願いします。

○市長（安藤正明君） では、印刷費、そしてまた人件費を調べて、後日お伝えをさせていただきます。

○議長（堀岡敏喜君） 大原議員。

○16番（大原 功君） 市長、あなたは首長なんですから、そうでしょう。私だったら会社を幾つか持っている社長なんです。これをつくれれば幾らかかって、幾らの利益があって、するわけなんです。これをつくっておる以上は、当然あなたはつくる経費はわかっておるはずなの。何もわからず訂正しました。これで迷惑をかけた、済みません、そんなことないですよ。いいかね。できたら、市長、あなたはファストトラックを知っていますか。あなたの権限で議会を解散することもできる。あなたも解散してもいいわけ。もう一遍一からやり直

してするようなことが大事なことなんです。そうでしょう。あなたではなかなか市長というのは難しい。あなたは後継者を選んで、できたら弥富市に女性の市長を選ぶようにしてやれば、もっと市民に優しくできるわけなの。そうでしょう。

本会議についても、うその答弁があった。人をちょうらかすような答弁で市民が安堵できるか。市民は、皆さんが本当にえらい、建て売りを買ったり、あるいはローンを払ったり、生活したり、大変えらいわけなの。あなたは裕福かしらんけれども、市民の方は数多くの方が本当に苦しんで、税金は払わなきゃいかんから払っておるわけなんです。これは義務なんです、国民のね。あなたはそれだけの無駄なことをしておって、普通、会社の社長だったら、ピンホール、当然これは責任をとってやめるのが当たり前なの。その決断があなたにできんですか、市長。

○議長（堀岡敏喜君） 安藤市長。

○市長（安藤正明君） 今回の件で本当に多くの皆様に御迷惑をかけたことをまた重ねておわびを申し上げる次第でございますが、これからはしっかりと勉強していきまして、弥富市財政健全化に向けて頑張っまいりますものですから、御理解賜りますようよろしくどうぞお願い申し上げます。

○議長（堀岡敏喜君） 大原議員。

○16番（大原 功君） 本会議でもあなたは勉強すると言っていた。そうしたら、勉強なしにこれを出しておることはどういうことなんだ。あなたの言っておることは、先ほど言ったように、本会議でうそを言っておることになるんだ。フェイク、いわゆるかたりなんだ、これは。そうでしょう。あなたもこれまで言われたら、市長を辞職して、市民に信を問うて、あなたが再度もう一遍、市民の投票がどうなるかわかりませんが、やるのが当然のことではないですか。一体何を考えておるんですか。あなたは県会議員で7年半おって、大村知事の県庁の中で何を勉強して何をやったんですか。服部市長の跡を継いでやるということで、我々こういう議員も応援したわけなの。その応援が、我々が市民から叱られちゃっておる。市長、叱られたということはあなただけじゃないんです。我々議員はみんな叱られておる。その叱られた責任は当然とるべき。違いますか、安藤市長。

○議長（堀岡敏喜君） 安藤市長。

○市長（安藤正明君） 責任をというようなお話があるわけでございますが、正しい市政運営に当たることによりまして責任をとりたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○議長（堀岡敏喜君） 大原議員。

○16番（大原 功君） 本会議がありますので、最終日前に結論を出していただいて、そして市民にわかりやすい説明をしないと、ただ我々議会がこれをいかんよと言って、市民もこんな予算をつくるのはもってのほかだと。私も36年議員をやらせていただいたけれども、そ

この中で町長も2回かわった、市長も2回かわった。安藤市長になった。その中では、当選した暁には大判振る舞いをして市民の安心・安全をつくる、これが議会なんです。そうでしょう。それをあなたは全然間違っておる方向になっておる。こういうことで市民が本当についてきますか。プールでもなくす。突然でしょう。私は耳が遠かったから、1月十何日にそういう説明をしたという話ですけれども、私は前にも言っていました。市役所が回答するときには、文書を書いてくださいということも言っていました。全協でちゃんと言ってあるはず。そういう告知があなたには全然わからんわけなの。わからん人がかじを取ったら、船でいったら岸壁にぶつかってしまう。

きのうの一般質問でもそうです。あの答弁は全くおかしい答弁です。産廃というのは、農転をかけたり、転用したりする必要はありません。あなたが警察にこういうふうだと言えばすんとできるわけなんです。そんなことぐらい、あなたも弥富土地の職員であった。弥富土地の事務局長もやっている。こんなことをやっておれば、私よりあなたのほうが農地についてよく知っておらんか。こんなでたらめをやっておったら、弥富市の市民の食事は公害だらけの食事になっちゃう。中学校の子どもさんでも、きのうも言ったように、塗装したり何かすれば、子どもさんが全部そこにいろんなものが入る。環境ホルモンやいろんなものが当たるわけ。こういうのを含めれば、あなたは市長だったら、これを守るのは当然でしょう。守っていただくから市民の皆さんが税金を納めるわけなの。これは目的税ですよ。あなた、何のためかわかる。これをつくるためではないんですよ。目的税というのは、地域の安全、あるいは交通安全、福祉、いろんなものを含めてするわけなんです。なかなかわからんようでは、できたらいわゆる先ほど言ったようにファストトラック、市長権限で議会を解散するなり、あなたはやめるべきだと思う。

これ以上聞いても仕方がないから、これで終わります。

○議長（堀岡敏喜君） 他に質疑の方はありますか。

〔挙手する者なし〕

○議長（堀岡敏喜君） なければ、私から質疑をしたいと思いますので、会議規則第54条の規定により、副議長と議事進行を交代します。

〔議長、副議長と交代〕

○副議長（三浦義光君） それでは、議長と議事進行を交代し、会議を続けます。

質疑の方はございませんか。

〔挙手する者あり〕

○副議長（三浦義光君） 堀岡議員。

○12番（堀岡敏喜君） こんにちは。

今回の31年度一般会計予算の訂正について、確認と二、三の御質問をさせていただきたい

と思います。

今回、さまざま一般質問等、また御意見がございます。その中で、副市長より提案がありまして、訂正ということで申し入れがございました。

この訂正といいますのは、本来であれば、例えば今皆さんのお手元にあるその予算書の表記のミスであるとか、また計算ミスであるとか、割と軽微なことに使われるのが実際は訂正でございます。

だけれども、今回訂正という形でこの予算、中身は修正に近い、いや、もう修正と言ってもいいものだと思いますが、これは先ほど議運、また全協でも副市長のほうから御説明がありましたとおり、訂正という形はとっておりますけれども、会期的なもの、これは4月1日から施行されないと弥富市民の皆さんの生活に支障を来すということもありまして、市議会としてもお受けをして訂正という形でそれを受けるという理解でよろしいでしょうか。

市長でも副市長でも結構です。

○副議長（三浦義光君） 大木副市長。

○副市長（大木博雄君） 言葉として、訂正も修正も技術的な問題だと思いますので、そっくりかえていただくというようなことで考えていただければいいかなというふうに思います。

○副議長（三浦義光君） 堀岡議員。

○12番（堀岡敏喜君） それでは、そういう確認のもとにお聞きをしたいと思います。

今回、さまざま修正にかかるまでいろいろ不信のもとといいますか、これは12月議会の最終日、全協でいきなり、これは一般質問でも何回もありましたから繰り返しお聞きはしませんが、この訂正案を出すに当たった理由、初めにあったのは敬老会の予算のカットであるとか、広島研修のカットであるとか、これが全協で発表されて、されたはいい。そのことに関していろいろ議会のほうからも反論がありました。だけれども、その次の日には復活しました。そういう話がありました。

今回も、こんな立派な冊子にして、先ほどの大原議員じゃないですけども、出てきた予算書の中に総合計画との整合性がとれないなど、また扶助費のカットをされているとか、さまざま納得のいかない予算になっております。今回、訂正の中で、ある程度修正は加えられているんでしょうけれども、冊子にする前に、先ほども議運の中でも話はございましたが、ここをちゃんとなぜそうなったのかということと、これからどうするのかということ进行を明らかにしていただかないと、今後、6月議会、この31年度、また新年号にかわる新しい時代に向けて、本当に安心して市政運営が我々できないじゃないですか。

確かに財政は厳しいかもしれないですけども、だけれども、その中でも弥富市の皆さんがこのまちに住んでよかったと。その中で税収をふやすにはどうしたらいいか、これを議会と行政と一体になって考えていくことが、やはり国から求められている地方創生ということ



もあるんじゃないですか。

そういう意味で、今回こんな問題になったことをどう反省して、今後どうしていくのかということ、執行部の方、誰でもいいですよ、お答えください。

○副議長（三浦義光君） 大木副市長。

○副市長（大木博雄君） 今回の訂正に関しましては、本当に御迷惑をおかけしたと思っております。

やはり基本になるのは第2次総合計画でありますので、その総合計画、それから今後また皆様に御提示いたしますけど、都市計画マスタープランとか、そういった総合計画をもとにしたいろんな計画に基づいて進めていくという考えでありますので、財政も考えながら執行したいというふうに思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

○副議長（三浦義光君） 堀岡議員。

○12番（堀岡敏喜君） そうですけれども、それ以外にやっぱり行政、執行部としての体制ですよね。例えば今回市長は12月に就任されてまだ3カ月というところで、執行部の各部局の代表の皆さんがいらっしゃるでしょう、責任者の方がいらっしゃるわけでしょう。そちらの方に意見を求めたのか、また部局の方から市長の決断に対して意見を言われたのか、こういうところの成果が今回の予算には見えていないわけですよ。だからこんな訂正ということになっておるわけでしょう。その辺のことというのは是正するということとはできないんですか。市長でもいいし、副市長でもいいですし。

○副議長（三浦義光君） 大木副市長。

○副市長（大木博雄君） 今回の当初の予算編成につきましては、市長の思いもございましたけど、それぞれ担当部局からしっかりした思いは出ておりました。そういった中で、私も反省しなきゃいかんと思っておりますけれども、しっかりと受けとめて市長に進言しなきゃいかんかったと思います。ある程度は進言しましたけれども、やっぱり弱かったかなというふうに思ってお大変反省しております。

今回、本当に申しわけないことをしたというふうに、市長にも迷惑をかけたなというふうに思っておりますので、本当に申しわけございませんでした。

○副議長（三浦義光君） 堀岡議員。

○12番（堀岡敏喜君） 安藤市長はどうですか。

○副議長（三浦義光君） 安藤市長。

○市長（安藤正明君） 今回の件につきましては、私、選挙中から言っただけで、とにかく弥富市の財政を健全化したい、その思いが余りにも強過ぎまして、市民、また議会が見えていなかったということは大きな反省点でございます。

今後は重点事業につきましては、議会の始まる前に議員の皆様にご相談を申し上げ、進め

てまいりたいと思っているところでございます。

○副議長（三浦義光君） 堀岡議員。

○12番（堀岡敏喜君） 行政もそうですし、市議会もそうですけど、代表として、代弁者として責任はあると思いますが、やはり責任とプライドとか、そういうものは違うと思うんですよ。やっぱり市民のために泥をかぶるぐらいの、泥をすするぐらいの、泥んこになってもやるぐらいの気持ちでやっていかないと、市民の皆さんと一体になって弥富市を盛り上げていくようなことはできないですよ。勝手に行政が動いている。今回のことも、市民のどれだけの皆さんがこういうことが起こっているということを理解されて、きょう報道の方も来られて、うまいこと書いていただけたとは思いますが、まず市民の皆さんと問題を共有して、代表がこうやって話して、また勝手にやっておるわ、政治に対する不信につながるようなことになっては、僕はこれはいけない、何のプラスにもならないことだと思うんです。だから、これは大いに反省をしていただきたいし、我々もやっぱり弥富市が発展することについてポジティブに議論がしたいわけですよ、いいとか悪いとかじゃなくて。ポジティブに議論がしたいので、やはり予算を立てる以上は、市長も簡単に修正するというものじゃなくて、押し通すぐらいの気持ちが必要んじゃないですか、本当に。そのぐらいじゃないと予算って立ててはいかんと思うし、ここに出してはいかんと思います。簡単に修正するというものでもいかんと思います。そのぐらい責任があることだと思うので、今後は、先ほどから何回も市長は頭を下げられていますけれども、議会として、まだこの訂正を受けたということだけであって、一般会計予算を承認したということではございません。あしたの議案質疑、明後日の委員会ですっかり審議をして、納得のいく形で4月1日から施行できるように、そこだけは議会も行政も共有をしているところでございますので、真摯に審議していただくようお願いして、私の質問を終わります。

○副議長（三浦義光君） 議長の質疑が終わりましたので、議事進行を議長と交代をいたします。

〔副議長、議長と交代〕

○議長（堀岡敏喜君） 他に質疑の方はありませんか。

〔挙手する者なし〕

○議長（堀岡敏喜君） 質疑なしを確認しましたので、これにて質疑を終了いたします。

これより討論に入ります。

討論の方はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（堀岡敏喜君） 討論のないことを確認しましたので、討論を終結し、これより採決に入ります。

ただいま議題となっております議案第1号平成31年度弥富市一般会計予算の訂正については、これを承認することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（堀岡敏喜君） 異議なしを認めます。

よって、本案は承認することに決しました。

本日、安藤市長より、議案第31号平成30年度弥富市一般会計補正予算（第7号）が提出をされました。

お諮りをします。

これを直ちに日程に追加をし、議題としたいと思えます。

これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（堀岡敏喜君） 異議なしと認めます。

よって、議案第31号を本日の日程に追加し、議題とすることに決しました。

~~~~~ ○ ~~~~~

#### 日程第4 議案第31号 平成30年度弥富市一般会計補正予算（第7号）

○議長（堀岡敏喜君） この際、日程第4、議案第31号平成30年度一般会計補正予算（第7号）を議題といたします。

安藤市長に提案理由の説明を求めます。

安藤市長。

○市長（安藤正明君） 議案第31号平成30年度弥富市一般会計補正予算（第7号）につきましては、先ほど御説明させていただきましたように、桜小学校の長寿命化改良工事の関連経費を計上するものでございます。

以上が提案する議案の概要でございますが、議案の詳細につきましては総務部長から説明いたしますので、よろしく御審議賜りますようお願いを申し上げます。

○議長（堀岡敏喜君） 議案の説明を渡邊総務部長よりお願いします。

渡邊総務部長。

○総務部長（渡邊秀樹君） 議案第31号平成30年度弥富市一般会計補正予算（第7号）につきましては、歳入歳出それぞれ5億7,732万円を追加し、歳入歳出予算の総額を188億7,883万2,000円とするものであります。

歳入予算につきましては、教育費国庫補助金1億8,992万3,000円、教育債3億8,720万円を増額するものであります。

歳出予算の主な内容といたしましては、桜小学校の長寿命化改良工事施工のため、小学校修繕等工事請負費5億6,800万円を増額するものであります。

なお、補正予算額全額を繰越明許費で翌年度に繰り越すものでありまして、あわせてこれらの事業の財源として地方債の補正を計上するものでございます。以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君） お諮りをいたします。

本案は継続議会で審議をしたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（堀岡敏喜君） 異議なしと認めます。

よって、本案は継続議会で審議することに決定をいたしました。

以上をもちまして本日の議事日程は全て終了しましたので、本日の会議はこれにて散会をいたします。お疲れさまでした。

~~~~~ ○ ~~~~~

午後2時30分 散会

本会議の顛末を記載し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

弥富市議会議長 堀 岡 敏 喜

同 副議長 三 浦 義 光

同 議員 武 田 正 樹

同 議員 大 原 功